

原水爆禁止2019年世界大会にご参加の皆さまをはじめ、関係者の皆さまの平和に向けた活動に心から敬意を表します。

市内には、戦時中、東洋一の規模と言われた軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」があり、度重なる空襲により多くの尊い命が失われたことや、「長崎・平和祈念像」の制作者である北村西望氏のアトリエがあったことなどから、当市は平和を希求する思いを強く持ち続けてまいりました。

昭和 57 年に非核都市宣言を、平成 23 年に当市に初の空襲があった 11 月 24 日を「武蔵野市平和の日」に制定するなど、「戦争も核もない世界を武蔵野から」をスローガンに戦争の記憶を次世代に引き継ぎ、平和の尊さを発信する取り組みを進めております。今年度も、市民の皆さまとともに夏季平和事業や武蔵野市平和の日イベント、新たな戦争関連資料の展示など、様々な平和啓発事業を実施いたします。

世界で唯一の被爆国の自治体として、今後とも、核兵器廃絶、世界の恒久平和の実現を機会あるごとに訴え続けてまいります。

2019年 8 月

武蔵野市長

松下 玲子